

## 第3章のテーマ

めざす教育と施策体系の方向性について記載

## 持続可能な社会の 創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

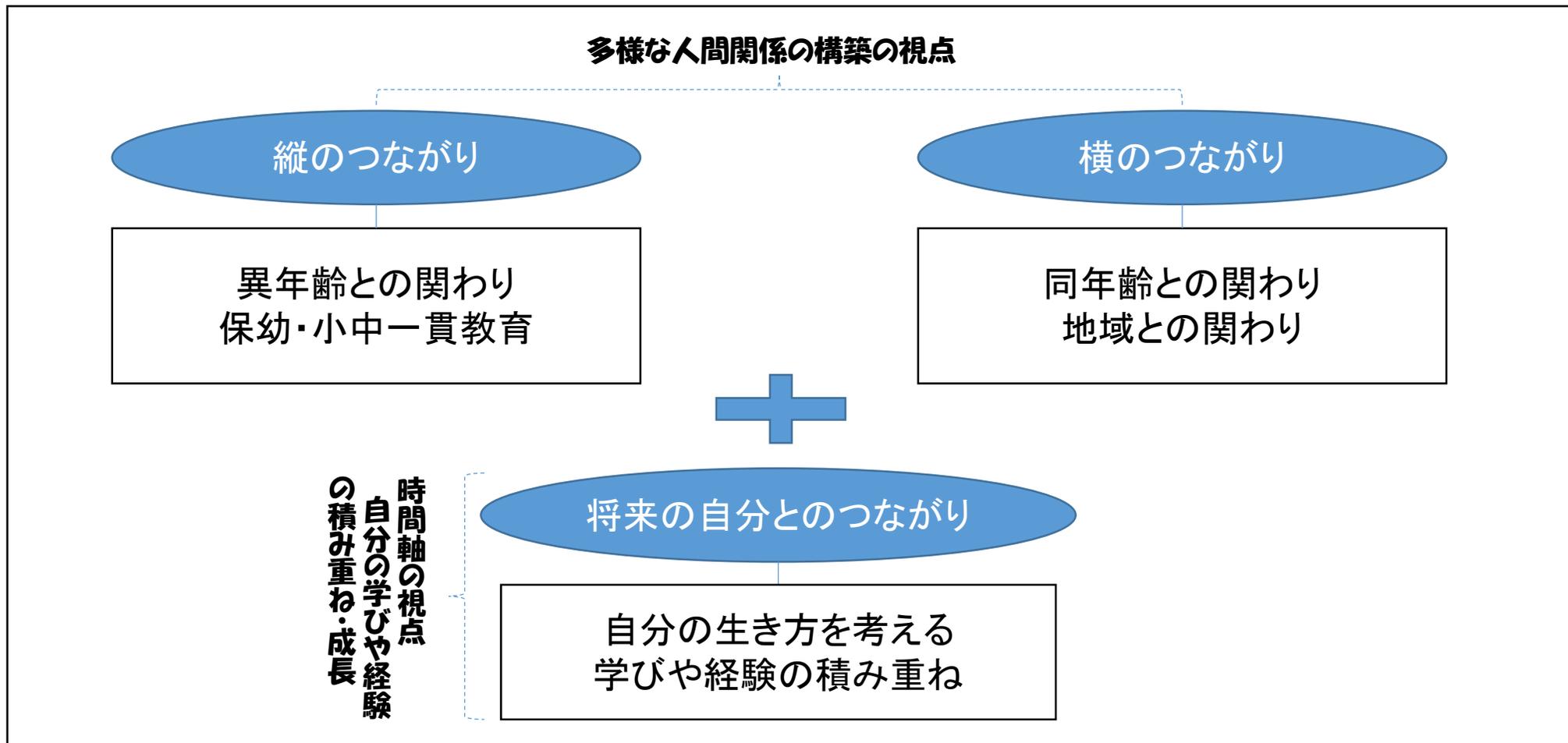
## 日本社会に根差した ウェルビーイングの向上

- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

# 門真のめざす教育のイメージ図



## キーワードは「つながり」



縦のつながり  
とは…？



異年齢  
異学年  
異校種  
とのつながり

縦のつながり



横のつながり  
とは・・・？



子どもどうしのつながり  
地域の様々な大人との関わり

子どもを見守る  
地域の大人たち



横のつながり

地域の大人や中学生等は  
縦ともいえる？  
横ともいえる？



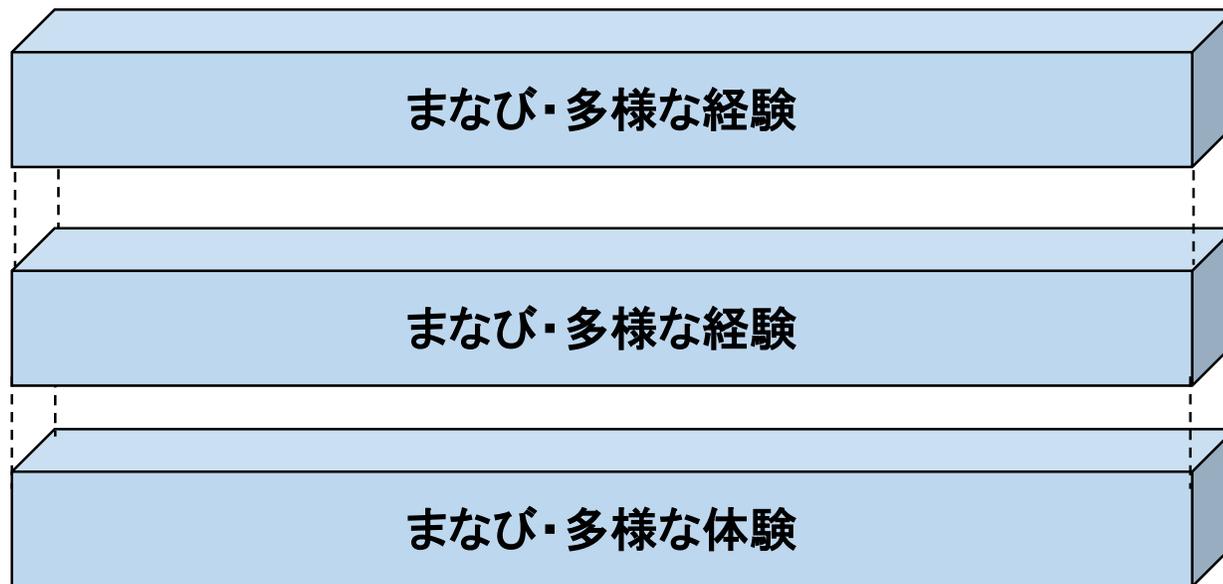
単純な線では表せない  
面のようなもの



将来の自分との  
つながりとは・・・？



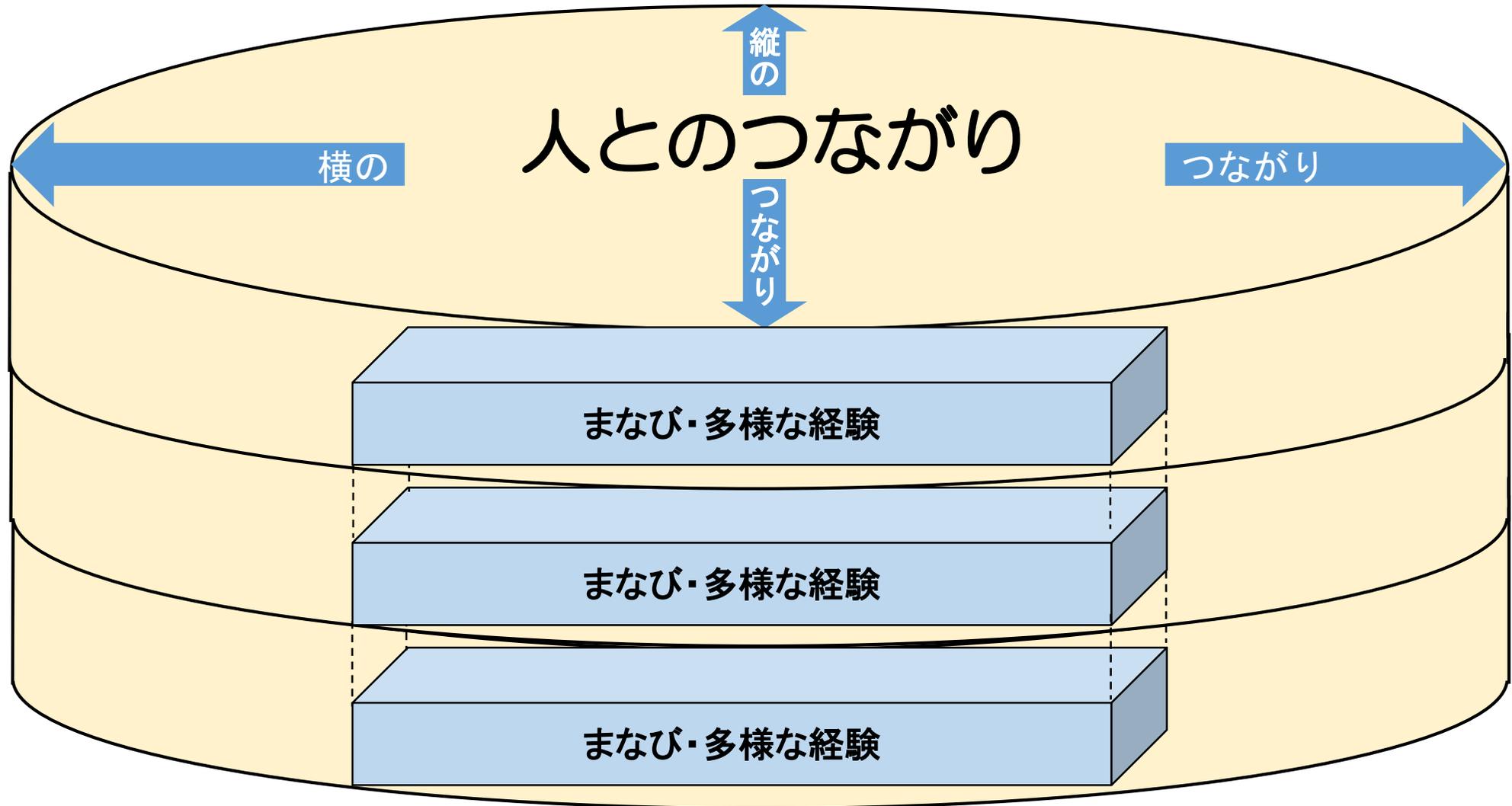
成長するにつれて  
何層にも重なるイメージ



縦のつながり  
横のつながり  
将来の自分とのつながり



自分の生き方につながっていく



発達段階に応じた人のつながりとまなび・経験が  
成長とともに積み重なっていくイメージ

持続可能な社会の創り手の育成

ウェルビーイングの向上

# 自立

人とのつながりとともにまなびや経験の積み重ねを通じて、一人ひとりが自分の生き方を見つけてほしいという思いを共有し、子どもたちの自立をめざした教育を進める

横の

人との

縦の  
つながり

つながり

ながら

まなび・多様な経験

まなび・多様な経験

まなび・多様な経験

成長していく将来の自分とのつながり

# めざす教育や3つのつながりを創るために 施策全体として共通で取り組む事項

## (1) 令和の日本型学校教育の推進

<将来の自分とのつながり>

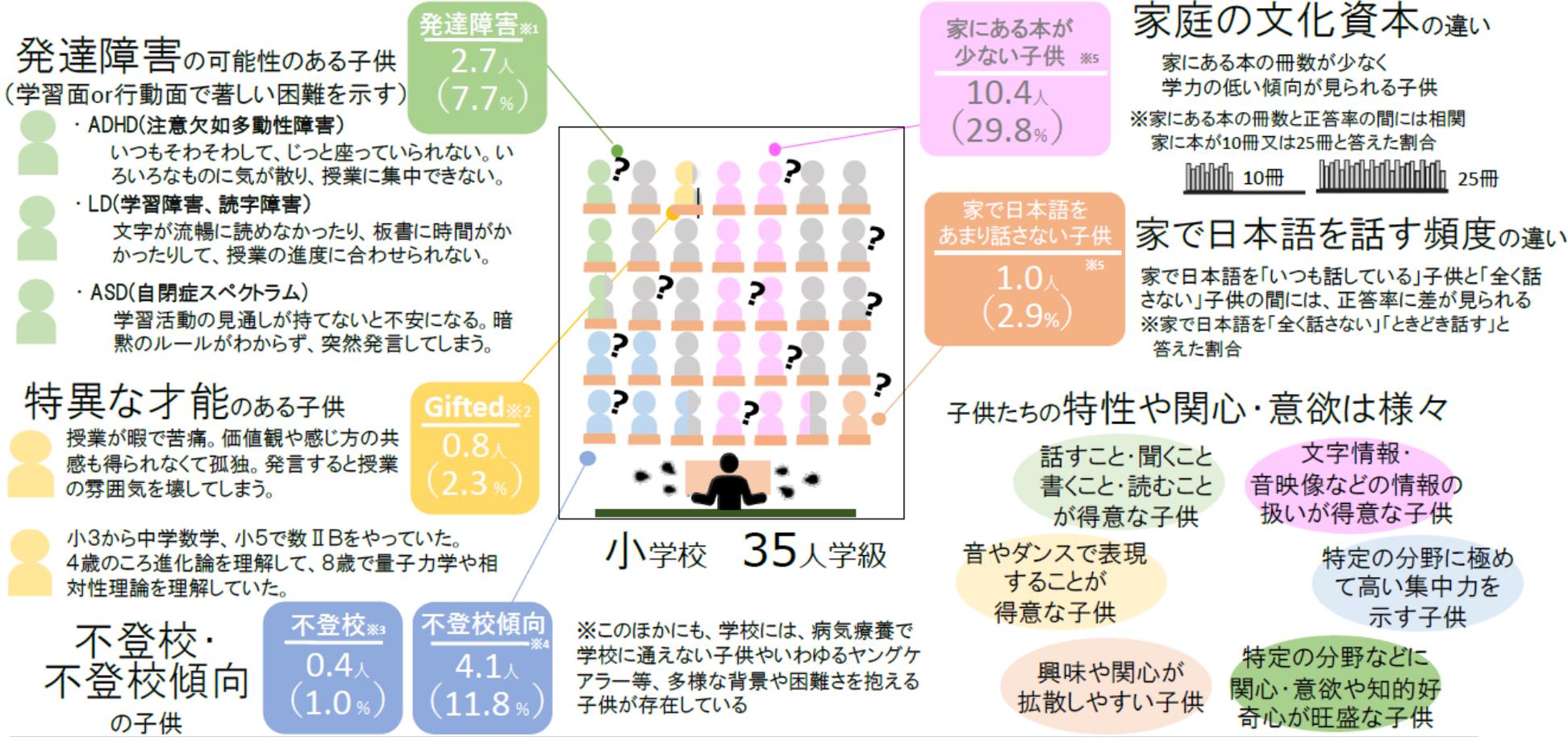
## (2) 小中一貫教育の推進

<縦のつながり>

## (3) 地域とともにつくる学校教育の推進

<横のつながり>

発達障害や特異な才能、家で日本語を話す頻度が少ない子供、家庭の文化資本の差による学力差等、学級には様々な特性を持つ子供が存在し、これらの特性が複合しているケースもある。同学年による同年齢の集団は、同調圧力が働きやすく、学校に馴染めず苦しむ子供も一定数存在し、不登校・不登校傾向の子供は年々増加の一途をたどっている。さらには、一斉授業スタイルでは、一定の学力層に焦点を当てざるを得ず、結果として、いわゆる「浮きこぼれ」「落ちこぼれ」双方を救っていない現状。このように、子供たちが多様化する中で、教師一人による紙ベースの一斉授業スタイルは限界にきている。



【出典】※1 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果 平成24年12月 (文部科学省) 「2.7人(7.7%)」の数字は、ADHD、LD、ASDの内訳を示したものではない。発達障害の記載は、日野公三著『発達障害の子どもの進路と多様な可能性』(WAVE出版、2018年)を参考に内閣府で作成。  
 ※2 日本には定義がないため、IQ130以上を仮定し、知能指数のベルカーブの正規分布を元に算出。子供の吹き出しは、文部科学省 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議アンケートを参考に編集。  
 ※3 不登校 年間に連続又は断続して30日以上欠席 (令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省))  
 ※4 不登校傾向 年間欠席数30日未満、部分登校、保健室登校。「基本的には教室で過ごし、皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている」場合など含む (不登校傾向にある子どもの実態調査 (日本財団))  
 ※5 令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙、生徒質問紙結果より内閣府において作成。全国平均値等を1クラスに仮に見立てた場合のイメージ図。実際には偏在等は生じている可能性が有る旨留意。児童生徒質問紙内容: あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(家にある本の冊数は、家庭の社会的経済的背景を表す代替指標の一つ) 児童生徒質問紙内容: あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか。(家で日本語を話す頻度の状況を確認するための質問事項)

出典: Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ<中間まとめ> 令和3年12月24日 内閣府総合科学技術・イノベーション会議教育・人材育成ワーキンググループ

### 3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

#### ① 個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

#### 指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、  
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現  
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

#### 学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

### それぞれの学びを一体的に充実し 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

#### ② 協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す

- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

# めざす教育や3つのつながりを創るために 施策全体として共通で取り組む事項

## (1) 令和の日本型学校教育の推進

<将来の自分とのつながり>

## (2) 小中一貫教育の推進

<縦のつながり>

## (3) 地域とともにつくる学校教育の推進

<横のつながり>

# 計画の施策体系(案)

## 【めざす教育や3つのつながりを創るために施策全体として共通で取り組む事項】

- (1) 令和の日本型学校教育の推進      (2) 小中一貫教育の推進      (3) 地域とともにつくる学校教育の推進

### 【基本施策1】

#### 質の高い学校教育の提供

- (1) 個別最適な学び・協働的な学びの推進
- (2) 探求的な学びの推進
- (3) 学び続ける教職員の育成
- (4) 自分の将来を描ける力の育成
- (5) すべての子どもの人権が尊重される学校づくりの推進
- (6) 発達支持的生徒指導の推進
- (7) 特別の教育課程を編成した指導の推進
- (8) いじめ防止の取組と不登校児童生徒の支援の充実
- (9) 健康な心と体を作るための取組の推進

### 【基本施策2】

#### 学びを支える環境づくり

- (1) 教職員を支えるチーム学校の体制づくり
- (2) 教職員の人材育成と授業力の向上
- (3) 教職員の働き方改革の推進
- (4) 学校施設の改善
- (5) 子どもたちを事故や災害から守るための取組の充実
- (6) 教育ICT環境の充実
- (7) 将来を見据えた新たな学校づくり